

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Antenatal and postnatal association of maternal bonding and mental health in Fukushima after the Great East Japan Earthquake of 2011:the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル: 東日本大震災後の福島における母親の妊娠期から産後までのボンディングとメンタルヘルスの関連:子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Affective Disorders

年: 2021 月: 1 巻: 278 頁: 244-251

筆頭著者名: 黒田佑次郎

所属UC名: 福島UC

目的:

妊娠期から産後にかけての、ボンディング(母親の子どもに対する情緒的な絆)と母親の精神的な健康の推移についてはよく分かっていません。特に、原子力災害を経験した母親は精神的な健康を損ないやすいため、本研究は、福島県と福島県以外の地域の母親の精神的健康とボンディングの推移と関連を調べました。

方法:

母親の精神的な健康について、妊娠期はK6、産後はEPDSという指標を用いて評価をしました。それぞれ国際的に広く用いられている指標です。2011年から2014年度にエコチル調査に参加した母親のうち、今回の分析の基準を満たした母親(福島11481名、全国66163名)を対象に分析をしました。分析は多変量解析という手法を用いて、精神的健康に関連する要因(初産婦か経産婦か等)の影響を除いて評価をしました。

結果:

K6とEPDSの得点を福島と全国の母親で比較したところ、すべての年度で、有意に福島の母親の得点が高い結果となりました(つまり、精神的な健康度が低い)。多変量解析の結果では、2011年の福島のみ、ボンディングと精神的な健康に関係が認められず、それ以外の年度と場所では関係が認められました。また、福島の母親のボンディングは、時間の経過とともに回復傾向にあることが示されるとともに、妊娠期の精神的な健康は、産後の精神的な健康とも関連していることがわかりました。

考察:(研究の限界を含める)

福島の母親のボンディングのデータをみると全国に比べて有意に低いことが示されており、このことが福島の母親における精神的な健康の悪化に関連する要因のひとつだと考えられます。とりわけ、2011年が特徴的であったことから、震災の年の大きな混乱が反映されていると考えられます。一方で、福島の母親のボンディングが高まることは、精神的な健康の回復にも関わると考えられます。ただし、本研究には限界点もあります。福島は3つの地方に分かれており、震災・原子力災害の影響は地方により異なります。本分析では、福島県内の地域データが不足していたことから、県内の地域差を詳細に調べることができませんでした。

結論:

妊娠期から産後にかけての母親のボンディングと精神的な健康の関係を明らかにしました。また、発災年度の福島の結果に特徴があることは、有事に妊産婦に正確な情報提供を行うとともに、出産前からの継続的な支援を強化する(特にボンディングを高める支援)ことが重要であることが示唆されました。